

本文章已註冊DOI數位物件識別碼

▶ 司馬遼太郎の歴史小説に見るフィクションとノンフィクションの交錯—初期作品のテキスト構成から

Complexity of Fiction and the Nonfiction to Watch in the Historical Novel of Shiba Ryotaro; From the Text Constitution of the Initial Work

doi:10.29714/TKJJ.201012.0005

淡江日本論叢, (22), 2010

作者/Author：落合由治(Ochiai Yuji)

頁數/Page：73-97

出版日期/Publication Date：2010/12

引用本篇文獻時，請提供DOI資訊，並透過DOI永久網址取得最正確的書目資訊。

To cite this Article, please include the DOI name in your reference data.

請使用本篇文獻DOI永久網址進行連結:

To link to this Article:

<http://dx.doi.org/10.29714/TKJJ.201012.0005>



DOI Enhanced

DOI是數位物件識別碼（Digital Object Identifier, DOI）的簡稱，是這篇文章在網路上的唯一識別碼，用於永久連結及引用該篇文章。

若想得知更多DOI使用資訊，

請參考 <http://doi.airiti.com>

For more information,

Please see: <http://doi.airiti.com>

請往下捲動至下一頁，開始閱讀本篇文獻

PLEASE SCROLL DOWN FOR ARTICLE



從初期文本結構中，探索司馬遼太郎歷史小說中虛構與非虛構之交會

落合由治

淡江大學日文系教授

摘要

本論文意圖從容易對於起源之說而引發「歷史」教育、「歷史」觀對立之「過去（歷史）」相關文本結構來探索。研究範疇鎖定在日本社會評價高、亦最具代表性、最富意義的有名歷史小說家司馬遼太郎之代表作《龍馬獨步群雄》前後之3部作品為主。考察其文本中之結構，以此為日本歷史小說文本結構之指標。

考察結果顯示：司馬遼太郎小說中「敘述（解說）文」具有2項功能。乃是一方面解說故事內部世界與出現人物，同時也加之來自故事外部的歷史相關說明。如此營造氛圍、創作的筆法，造就了司馬遼太郎的歷史小說的特色。亦即是透過非虛構的史實的說明，將虛構的故事，賦與非虛構的真實生命。

關鍵字：司馬遼太郎、歷史小說、虛構、非虛構、文本

Complexity of fiction and the nonfiction to watch in the historical novel of Shiba Ryotaro; From the text constitution of the initial work

Ochiai Yuji

Professor, Tamkang University, Taiwan

Abstract

It is thought that the text about the history is the origin the opposition of "history" education and the "history" outlook on. It has approached about a text about "the past" (the history) in this article from a point of the text constitution. This article has took up three works of before and after when "Ryoma ga yuku" the best work from the work of Shiba Ryotaro as a sample. It is thought that social evaluation as a representative of the Japanese history novelist is highest in Ryotaro Shiba. This article has clarified an index to capture constitution of the text of the historical novel.

As a result, there are two kinds of roles in "a sentence to recite" (a commentary) with the work of Shiba Ryotaro. One role comments on the world and the appearance person of the story. Another role increases a historic commentary from the world outside. With the work of Shiba Ryotaro, it is thought that it is become nonfiction a story as the fiction by "a sentence to recite" (a commentary) of the nonfiction.

Keywords: Shiba Ryotaro, historical novel, fiction, nonfiction, text

司馬遼太郎の歴史小説に見るフィクションとノンフィクションの交錯

—初期作品のテキスト構成から—

落合由治

淡江大学日本語文学科教授

要旨

本論文では「歴史」教育、「歴史」観に関する対立の起源になると考えられる、「過去（歴史）」に関するテキストについてテキスト構成の点から迫ってみた。サンプルとして、日本の歴史小説家の代表として最も社会的評価の高いと考えられる司馬遼太郎の作品から、代表作『竜馬がゆく』前後の3作品を取り上げ、そこに見られるテキスト構成をもとに歴史小説のテキスト的構成を捉える指標を明らかにした。

その結果、司馬遼太郎の作品では「語る（解説）文」に2種類の役割があり、一方では物語の世界と登場者の解説をしながら同時に、その世界の外から歴史的解説を加えていることが明らかになった。司馬遼太郎の作品ではフィクションとしての物語がノンフィクション的な「語る（解説）文」によって、ノンフィクション化されていると考えられる。

キーワード：司馬遼太郎、歴史小説、フィクション、ノンフィクション、テキスト

司馬遼太郎の歴史小説に見るフィクションとノンフィクションの交錯

—初期作品のテキスト構成から—

落合由治

淡江大学日本語文学科教授

1. はじめに

現代社会では「現在」「未来」に関するテキストと同時に「過去（歴史）」に関するテキストも数多く発表されている¹。しかし、日本語教育で多文化共生が叫ばれる中、そうした「過去（歴史）」に関するテキストにおいて相互の歴史に対する無理解や否定が紛争の火種となることが知られている²。本論文では「歴史」教育、「歴史」観に関する対立の起源になると考えられる、「過去（歴史）」に関するテキストについてテキスト構成の点から迫ってみたい。本論文では、日本の歴史小説家の代表として最も社会的評価の高い司馬遼太郎の作品から、代表作『竜馬がゆく』前後の3作品を取り上げ、そこに見られるテキスト構成をもとに歴史小説のテキスト的構成を捉える指標を明らかにしたい。

最初に、なぜ司馬遼太郎をサンプルにするかの理由を述べておきたい。それは歴史・時代小説家としての司馬遼太郎の社会的影響力の大きさに拠る。日本の歴史・時代小説³作家は非常に多いが、NHK大河ドラマの原作に選ばれた作家で見てみると以下のようなになる⁴。

¹ ここでのテキストとは、ロラン・バルト（1979）『物語の構造分析』みすず書房が主張したように、作者が表現を通じて伝えようとした内容だけが重要だとする「作品」を超えた概念で、同時に時枝誠記（1960）『文章研究序説』山田書房が定義した「質的統一体」を意味する。

² 佐々木倫子・細川英雄・砂川裕一・川上郁雄・門倉正美・牲川波都季（編著）『変貌する言語教育 — 多言語・多文化社会のリテラシーとは何か』くろしお出版などを参照。

³ 歴史小説と時代小説を分け、さらに細かい分類をする考え方もあるが、本論文では漠然と現代（＝同時代）ではない過去の時代や人物、社会、事件などを描いた小説作品を歴史・時代小説と呼ぶ。

⁴ 専門の作家の原作を脚本家がシナリオにしている場合と脚本家が原作・脚本を兼ねている場合があるが、同じように作家として扱った。

表1 NHK 大河ドラマと原作作家および視聴率一覧⁵

順番	放送年	作品名	作／原作	歴史上の主人公	主演	平均視聴率 (%)
1	1963	花の生涯	舟橋聖一	井伊直弼	尾上松緑・二代目	20.2
2	1964	赤穂浪士	大佛次郎	大石内蔵助	長谷川一夫	31.9
3	1965	太閤記	吉川英治	豊臣秀吉	緒形拳	31.2
4	1966	源義経	村上元三	源義経	尾上菊五郎	23.5
5	1967	三姉妹	大佛次郎	永井家の三姉妹	岡田茉莉子	19.1
6	1968	竜馬がゆく	司馬遼太郎	坂本竜馬	北大路欣也	14.5
7	1969	天と地と	海音寺潮五郎	長尾謙信	石坂浩二	25.0
8	1970	樅の木は残った	山本周五郎	原田甲斐	平幹二郎	21.0
9	1971	春の坂道	山岡荘八	柳生宗矩	萬屋錦之介	21.7
10	1972	新・平家物語	吉川英治	平清盛	仲代達也	21.4
11	1973	国盗り物語	司馬遼太郎	斎藤道三／織田信長	平幹二郎	22.4
12	1974	勝海舟	子母澤寛	勝海舟	渡哲也・松方弘樹	24.2
13	1975	元禄太平記	南條範夫	柳沢吉保	石坂浩二	24.7
14	1976	風と雲と虹と	海音寺潮五郎	平将門	加藤剛	24.0
15	1977	花神	司馬遼太郎	村田益次郎	中村梅之助	19.0
16	1978	黄金の日	城山三郎	呂宋助左衛門	松本幸四郎	25.9
17	1979	草燃える	永井路子	源頼朝／北条義時	石坂浩二／松平健	26.3
18	1980	獅子の時代	山田太一	平沼銑治／苅谷嘉顕	菅原文太／加藤剛	21.0
19	1981	おんな太閤記	橋田壽賀子	ねね	佐久間良子	31.8
20	1982	峠の群像	堺屋太一	大石内蔵助	緒形拳	23.7
21	1983	徳川家康	山岡荘八	徳川家康	滝田栄	31.2
22	1984	山河燃ゆ	山崎豊子	天羽賢治／天羽忠	松本幸四郎／西田敏行	21.1
23	1985	春の波濤	杉本苑子	川上貞奴	松坂慶子	18.2
24	1986	いのち	橋田壽賀子	岩田（高原）未希	三田佳子	29.3
25	1987	独眼竜政宗	山岡荘八	伊達政宗	渡辺謙	39.7
26	1988	武田信玄	新田次郎	武田信玄	中井貴一	39.2
27	1989	春日局	橋田壽賀子	春日局	大原麗子	33.1
28	1990	翔ぶが如く	司馬遼太郎	西郷隆盛／大久保利通	西田敏行	23.2
29	1991	太平記	吉川英治	足利尊氏	真田広之	26.0
30	1992	信長	田向正健	織田信長	緒形直人	24.6
31	1993	琉球の嵐	陳舜臣	楊啓泰	東山紀之	17.7

⁵ 資料はNHK「大河ドラマ一覧」<http://www9.nhk.or.jp/taiga/>およびWikipedia「歴代大河ドラマ」により、論者制作（2010年9月11日閲覧）。

32	1993	炎立つ	高橋克彦	藤原経清／藤原清衡／藤原泰衡	渡辺謙／村上弘明	17.3
33	1994	花の乱	市川森一	日野富子	三田佳子	14.1
34	1995	八代将軍 吉宗	ジェームス三木	徳川吉宗	西田敏行	26.4
35	1996	秀吉	堺屋太一	豊臣秀吉	竹中直人	30.5
36	1997	毛利元就	永井路子	毛利元就	中村橋之助	23.4
37	1998	徳川慶喜	司馬遼太郎	徳川慶喜	本木雅弘	21.1
38	1999	元禄繚乱	舟橋聖一	大石内蔵助	中村勘三郎	20.2
39	2000	葵 徳川三代	ジェームス三木	徳川家康／徳川秀忠／徳川家光	津川雅彦／西田敏行／尾上辰之助	18.5
40	2001	北条時宗	高橋克彦	北条時宗	和泉元弥	18.5
41	2002	利家とまつ～加賀百万石～	竹山洋	前田利家／まつ	唐沢寿明／松嶋菜々子	22.1
42	2003	武蔵 MUSHASHI	吉川英治	宮本武蔵	市川海老蔵	16.7
43	2004	新選組！	三谷幸喜	近藤勇	香取慎吾	17.4
44	2005	義経	宮尾登美子	源義経	滝沢秀明	19.5
45	2006	功名が辻	司馬遼太郎	千代／山内一豊	仲間由紀恵／川上隆也	20.9
46	2007	風林火山	井上靖	山本勘助	内野聖陽	18.7
47	2008	篤姫	宮尾登美子	天璋院篤姫	宮崎あおい	24.5
48	2009	天地人	火坂雅志	直江兼継	妻夫木聡	21.2
49	2010	龍馬伝	福田靖	坂本竜馬	福山雅治	放映中

NHK 大河ドラマはNHKの最長寿番組の一つで、49年間連続して制作されてきた歴史や事件を舞台にした長篇ドラマである⁶。ビデオリサーチ社のデータでは、放映時の平均視聴率は最低でも14.1%、最高は39.7%に達したこともある人気番組である⁷。若手として主演した俳優・女優が以後、高い評価を受けるようになった例も多く、2000年代に入ると日本の歴史ブーム、歴女ブームの火付け役にもなっている⁸。2008年の「篤姫」は最近では稀にみる高視聴率で、台湾で

⁶ NHK 大河ドラマに関する視聴者の見方や意見はWikipedia「大河ドラマ」参照。

⁷ ビデオリサーチ（2010）「NHK 大河ドラマ関東地区」のデータに拠る

<http://www.videor.co.jp/>

[data/ratedata/program/03taiga.htm](http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/3967.html)。また、このデータを基にした視聴率の変化は社会実情データ図録「図録 NHK 大河ドラマの平均視聴率推移」

<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/3967.html> 参照（2010年9月12日閲覧）。

⁸ 近年御歴史ブームについては日経ビジネス ONLINE（2009）「深澤真紀の平成女子図鑑・【21】歴女（レキジョ）と和女子」

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/skillup/20090520/195263/>（2010

も話題になったのは記憶に新しい。日本の大衆文化あるいは流行文化に与える影響力は非常に大きいと言える。その中で原作が選ばれた作家で見ると、表2のように司馬遼太郎が最も多く、吉川英治、山岡荘八、そして脚本家の橋田壽賀子が続いている。近年では、2006年の「功名が辻」の原作に選ばれている。

表2 作家別のNHK大河ドラマ登場数

NHK大河ドラマ数	作家
6	司馬遼太郎
4	吉川英治
3	山岡荘八 橋田壽賀子
2	海音寺潮五郎 高橋克彦 舟橋聖一 大佛次郎 永井路子 宮尾登美子 堺屋太一 ジェームス三木
1	子母澤寛 南條範夫 城山三郎 井上靖 山崎豊子 杉本 苑子 新田次郎 陳舜臣 竹山洋 火坂雅志 山本周五郎 村上元三 福田靖 三谷幸喜 田向正健 市川森一

司馬遼太郎は、現代日本の歴史・時代小説作家の中で最も人気がある作家の一人と考えられるが、その影響力は出版物ばかりでなくテレビ・メディアにも大きく拠っていることが分かる。そして、その影響力は海外にも及んでいる。

台湾のインターネット書店「博客來網路書店」で現在、販売されている司馬遼太郎の作品は31点あり、以下の図書がある⁹。

表3 「博客來網路書店」で販売中の司馬遼太郎作品

通番	台湾版	原作
1	『豊臣秀吉』武陵 1988	『新史太閤記』1968
2	『最後の将軍』遠流 1989	『最後の将軍』1967

年9月12日閲覧)などを参照。また、地方では歴史ブームに乗ったイベントや展示などがニュースになっている。一例として、中国新聞社(2008)「大和ブームその後 海の歴史回廊つくろう」<http://www.chugoku-np.co.jp/Syasetu/Sh200803030140.html>は大和ミュージアムを中心にした呉の近代史を利用した街作りを報道している(2010年9月12日閲覧)。

⁹ 「博客來網路書店」<http://www.books.com.tw/> (2010年9月11日閲覧)。
Wikipediaに拠れば「博客來網路書店是台灣統一企業所開設之網路書店，成立於1995年，之後亦銷售圖書以外之產品；目前是台灣最悠久、且市場佔有率最高的網路書店」。なお、これは販売中の作品で、今まで翻訳された全体ではない。司馬遼太郎作品名と発行年は司馬遼太郎記念館「司馬遼太郎作品年抄」による<http://www.shibazaidan.or.jp/24nenpyo/index.html> (2010年9月11日閲覧)。

	『最後の將軍』遠流 2007	
3	『項羽對劉邦：楚漢雙雄爭霸史(壹)(貳)(參)(肆)』遠流 1994 『項羽對劉邦：楚漢雙雄爭霸史(上)(下)』遠流 2005 『項羽與劉邦. 第 2 部(XJD)』南海出版公司	『項羽と劉邦』1980
4	『台灣紀行』臺灣東販 1995	『街道をゆく』1971-96
5	『幕末(下)―終結幕府. 十二則暗殺風雲錄』遠流 1996 『幕末(上)―終結幕府. 十二則暗殺風雲錄』遠流 2003	『幕末』1966
6	『宛如飛翔(1-10 冊)』遠流 1996	『翔ぶが如く』1975-76
7	『鎌倉戰神源義經(上)初陽之卷(下)逆浪之卷』遠流 1997	『義經』1968
8	『徳川家康』武陵 1999 『徳川家康：霸王之家』重慶出版社 2009	『霸王の家』1973
9	『板本龍馬(一)～(八)』成陽出版 2001	『竜馬がゆく』1963-66
10	『宮本武蔵』遠流 2007	『宮本武蔵』1968
11	『豊臣家族』重慶出版社 2008	『豊臣家の人々』1967
12	『新選組血風録(上)(下)』遠流 2010 『新選組血風録』重慶出版社 2010	『新選組血風録』1964

さらに、NHK 大河ドラマの原作になった日本の歴史・時代小説作家の作品数を同じく調べてみると、以下ようになった。

表 4 作家別の NHK 大河ドラマ登場数

登録作品点数	作家・作品数
30 以上	司馬遼太郎 31 山崎豊子 30
20～29	陳舜臣 20
10～19	山岡荘八 15 宮尾登美子 15 橋田壽賀子 14 海音寺潮五郎 14 南條範夫 13
1～9	吉川英治 5 山本周五郎 5 井上靖 3 城山三郎 2 竹山洋 2 高橋克彦 1 福田靖 1 三谷幸喜 1
0	子母澤寛 0 舟橋聖一 0 大佛次郎 0 永井路子 0 堺屋太一 0 杉本苑子 0 新田次郎 0 火坂雅志 0 ジェームス三木 0 村上元三 0 田向正健 0 市川森一 0

台湾出身の歴史・時代小説作家の陳舜臣を除けば、近現代を舞台とした作品が多い山崎豊子に対して司馬遼太郎は日本の歴史・時代小説作家では最多の作品点数があり、それに大きく遅れて 15 点の山岡荘八、宮尾登美子、14 点の橋田壽賀子、海音寺潮五郎、13 点の南條範夫などがあり、台湾でも他を大きく引き離して作品が読まれ続

けている歴史・時代小説作家であると考えられる¹⁰。

こうした人気のため、日本のインターネットでも評価が高く、Wikipedia では主要参考文献も含めて非常に詳細な記述がなされて以下のような指摘がされている¹¹。

人物イメージの影響

司馬の作品はベストセラーかつロングセラーとなり、また多くが映像化された。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康、西郷隆盛らは多くの作品に重複して登場しており、現代の日本人が持つ「彼等の人物イメージ」は司馬の小説に大きく影響をうけている。／また、幕末の越後長岡藩家老・河井継之助のような本来はマイナーな人物が、一般の人々の間に人気が高いのは、あきらかに司馬の小説の影響であり、他にも、江戸時代の商人・高田屋嘉兵衛や、幕末の軍政家・大村益次郎、幕末明治の政治家・江藤新平等々も、司馬小説以外ではあまり描かれない人物にもかかわらず、司馬小説の影響で知名度の高い人物となった。人々は「歴史的人物としての彼等」ではなく「司馬作品の登場人物としての彼等」を愛しているとも言える。

中国語版でも、この記述が翻訳されて使われている。また、歴史観の問題もよく取り上げられる問題で、Wikipedia では以下のように書かれている¹²。

司馬の考え方

司馬の歴史観を考える上で無視できない問題は、合理主義への信頼である。第二次世界大戦における日本のありかたに対する不信から小説の筆をとりはじめた、という述懐からもわかるように、司馬の考え方は狂信的なもの、非論理的なもの、非合理的なもの、神秘主義、いたずらに形而上学的なもの、前近代的

¹⁰ 現在、台湾の出版物の中で最も流行している日本人作家は村上春樹と思われる。作品と関連評論で 37 点が「博客來網路書店」販売されている。しかし、作品数は 19 点である（2010 年 9 月 11 日閲覧）。

¹¹ Wikipedia「司馬遼太郎」（2010 年 9 月 11 日閲覧）。英語、スペイン語、イタリア語、韓国語、ロシア語、ハンガリー語、中国語の版がある。

¹² 参照同上。

な発想、神がかり主義、左右双方の極端な思想、理論にあわせて現実を解釈して切り取ろうとするなどの帝国陸軍的な発想の対極に位置するものであり、司馬はこれらを否定的に書くか、エッセイなどで否定している。司馬は近代合理主義がこれらに対局するものと考え、その体现者こそが司馬の愛する人物像であった。

以上から、司馬遼太郎は現代日本人の歴史人物イメージや歴史観に大きな影響を与え続けている存在の代表と考えられる。そして、台湾でも作品を通じて同じ影響力を行使している可能性がある。こうした点から見て、日本語教育では従来ほとんど注目されてこなかった歴史的理解の分野で、歴史・時代小説などのように、歴史的事実に何らかの形で関わることで、その社会の構成員の歴史像や海外での異文化理解に影響を与える、それぞれの社会が生みだしている様々な形態のフィクションあるいはノンフィクションのテクス特的特徴や社会的影響を考察していくことは重要な課題と言えよう¹³。

こうした現象に関わる考察は様々な研究ジャンルで可能であるが、本論文では以上の動機から、歴史・時代小説などの大きな社会的影響力を持って読まれている歴史に関わるテクストとはどのような構成のテクストなのかという点から、この問題について考察をす

¹³ 近年、日本のマスコミでは歴史ブームが喧伝され、マスコミやインターネットの記事を賑わしている。たとえば、インターネットメディアの ITmediaGamez は 2009 年に「ブームのきっかけは「BASARA」——乙女もハマる、歴史専門店「時代屋」に行ってきました」<http://gamez.itmedia.co.jp/games/articles/0901/27/news113.html> を出して、東京神田に出来た歴史専門書店「時代屋」の紹介記事を出している。紹介は歴史書に止まらず、グッズや DVD、ゲームソフトなどに及んでいる。インターネットの情報紹介サイト AllAbout は「資格・検定に見る「歴史ブーム」！」<http://allabout.co.jp/gm/gc/57843/> を特集して各地の歴史検定を紹介している。日経ビジネス ONLINE は「世界的な歴史本ブームの背景とは」<http://business.nikkeibp.co.jp/article/world/20100216/212782/> で歴史ブームは先進国共通の現象だと述べている（以上、2010 年 9 月 10 日閲覧）。これらからも方法の確立した歴史研究とはまったく別の形でフィクション的「歴史」が社会に受容されて影響を広げている様子が窺える。当然、歴史を専門としない日本語教師の歴史像や日本語学習者もその潮流から自由でいることは難しく、歴史文化理解はもちろん日本事情や日本理解あるいは学習動機などの面への影響を考慮すべきであろう。

すめてきたい¹⁴。そこで、現代日本を代表する歴史・時代小説作家として司馬遼太郎を対象に取り上げ、その歴史・時代小説作品について、主として出世作であり代表作とも言える『竜馬がゆく』とその前後の年の3作品をサンプルにして、歴史・時代小説作品のテキスト構成を捉える試みをおこなう。

2. 歴史・時代小説作品のテキスト構成 1

司馬遼太郎のテキスト構成に入る準備として、最初に考えてみたい問題は、歴史・時代小説作品は果たして典型的フィクションといえる小説作品の基本的テキスト構成と異なる点があるのかどうかという点である。これについては、すでに先行研究が出ている。野浪正隆（1999）は、小説の冒頭を時枝誠記が『文章研究序説』で6つに分類した基準を踏まえて、以下のように再整理した。

1 表現主体を叙述している

時枝2 作者の口上、執筆の態度を述べたもの

男もすなる日記といふものを、女もして見むとてするなり

時枝5 作者の主題の表白

2 作品世界を叙述している

2A 叙述内容が作品世界の時間軸上に並ばない

時枝3 全体の要旨、筋書、概要を述べる。

2B 叙述内容が作品世界の時間軸上に並ぶ

2B1 作品世界中の事件から述べられていない

時枝1 全体の輪郭、枠の設定であって、時、所、登場人物が提示される。

昔昔、ある所に、おじいさんとおばあさんがいました。

¹⁴ 司馬遼太郎の作品販売数は Wikipedia に拠れば 2005 年の雑誌『ダカーポ』の調査で「1 位 竜馬がゆく 2125 万部、2 位 坂の上の雲 1475 万部、3 位 翔ぶが如く 1070 万部、4 位 街道をゆく 1051 万部、5 位 国盗り物語 674 万部」であるという。大量の読者に受容されていることはこの数字からも明かである。

2B2 作品世界中の事件から述べられている

時枝 4 作品展開の種子或いは前提となる事柄の提示。

行く川の流は絶えずしてしかしもとの水にあらず、よどみに浮かぶうたかたはかつ消えかつ結びて久しくとどまりたるためしなし世の中にある人と栖と又かくのごとし云々

時枝 6 無冒頭の書き出し

そして、藤沢修平と芥川龍之介の作品の冒頭を比較し、藤沢修平は2B2「無冒頭の書き出し」の作品がしばしば見られ、芥川では2B1「全体の輪郭、枠の設定であって、時、所、登場人物が提示される」という傾向はあるが、歴史・時代小説と小説の冒頭表現は以上の6つの中で分類でき、歴史・時代小説と小説の冒頭には特別な違いは見られないとしている¹⁵。また、野浪正隆(2004)は、小説の冒頭構成を分析するのと同じ方法で時代小説の冒頭構成を取り上げて以下の4要素に分けている。

描写

一回的瞬時の事態を感覚によってとらえたようにして述べる叙述法。

例「雨が蕭々と降っている」「留鳥の二羽の航跡重なりて」

記述

要約的描写。長時間にわたる事態を要約して述べる叙述法。

例「昨日遠足に行った」「日本は経済成長後、その後始末に追われている」

説明

ものごとの機能・属性・所属・解釈等の判断を述べる叙述法。

例「彼は学生だ」「この薬で熱が下がるはずだ」

評価

¹⁵ <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kokugo/nonami/ronbun/boutou.htm> (2010年9月11日閲覧) 初出・野浪正隆(1999)「小説の冒頭部の機能について」『学大文』42 大阪教育大学 P23-42

ものごとに対する評価を述べる叙述法。

例 「彼はハンサムだ」「彼は優秀だ」

以上の4要素で時代小説の冒頭の構成を捉え、藤沢周平、山手樹一郎、佐伯泰英、司馬遼太郎、池波正太郎、佐藤雅美の作品の冒頭を分析し、以下のような結論を出している。

①語り手を設定することを目的とするタイプ

司馬遼太郎「国盗り物語」

②登場人物の説明を目的とするタイプ

佐伯泰英 「居眠り磐音 江戸双紙 陽炎の辻」

池波正太郎「剣客商売 女武芸者」

③視点人物を描写によって設定することを目的とするタイプ

3-1 いきなり視点人物を設定するタイプ

佐藤雅美 「恵比寿屋喜兵衛手控え」

3-2 語り手による記述・説明を行った上で視点人物を設定するタイプ

藤沢周平 「蝉しぐれ」

山手樹一郎「花笠浪太郎」

無冒頭の書き出しが多いとされる時代小説は、以上のように大きく分ければ「語り手」を設定するか「登場人物・視点人物」を設定するかに分けられるとされている¹⁶。本論文の対象とした司馬遼太郎は「語り手を設定することを目的とする」という点に特徴が見られることになる。

しかしながら、以上の指摘をフィクション（空想・架空）とノンフィクション（事実・実際）という表現的価値への志向性から見た場合、重要なことは、基本的にフィクションとして受容される小説とノンフィクション的側面をも持つと理解される歴史・時代小説と

¹⁶<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kokugo/nonami/ronbun/jidaiboutou.html>
 (2010年9月11日閲覧) 初出・野浪正隆(2004)「時代小説の冒頭表現」『学大
 国文』47 大阪教育大学 P1-19、野浪正隆(2007)「時代小説における風景描写」
 『学大國文』50 大阪教育大学 P37-47

の間には、テキスト構成の面で何ら違いは見られないという点である。つまり、テキスト構成上の質の面では、フィクションとしての小説とノンフィクション的側面を持つ歴史・時代小説とは同質と考えられ、表現上の特徴から両者を区別することはできず、歴史・時代小説は基本的にフィクション（空想・架空）を目指したテキストということになる。

3. 歴史・時代小説作品のテキスト構成 2

では、フィクションとしての小説とテキスト構成の面では実際にはまったく変わらない歴史・時代小説がノンフィクション的側面を持つのかのように、一体どのようなテキストの特徴が読者に対して錯覚を起こさせているのであろうか。また、そこに働いているテキスト的機能は何であらうか。そこで、司馬遼太郎『竜馬がゆく』の前後の時期の初期長編小説を選んで以下、冒頭の構成を見ていきたい。該当する作品は以下のとおりである。

表 5 司馬遼太郎の初期作品¹⁷

通番	作品名（執筆年代）主人公	全集
1	梟の城（1959年9月、講談社） 葛籠重蔵	第1巻 梟の城／上方武士道
2	風の武士（1961年5月、講談社） 柘植信吾	第16巻 十一番目の志士／風の武士
3	上方武士道（1960年11月、中央公論社） 公卿	第1巻 梟の城／上方武士道
4	戦雲の夢（1961年8月、講談社） 長宗我部盛親	第18巻 夏草の賦／戦雲の夢
5	風神の門（1962年12月、新潮社） 真田十勇士の霧隠才蔵	第2巻 風神の門／短編 最後の伊賀者／飛び加藤／果心居士の幻術／伊賀の幽鬼／戈壁の匈奴／兜率天の巡礼
6	竜馬がゆく（1963-66年、文藝春秋新社） 坂本龍馬、中岡慎太郎	第3巻 竜馬がゆく 1 第4巻 竜馬がゆく 2 第5巻 竜馬がゆく 3
7	燃えよ剣（1964年3月、文藝春秋新社） 土方歳三	第6巻 燃えよ剣

¹⁷ 全集未収録の1965年『城をとる話』光文社は除いた。

8	尻啖え孫市（1964 年 12 月、講談社） 雑賀孫市	第 8 卷 尻啖え孫市／短編 言い触らし団右衛門／売ろう物語／侍大将の胸毛／雨おんな／覚兵衛物語／花房助兵衛／おれは権現／軍師二人／愛染明王
9	功名が辻（1965 年 6 - 7 月、文藝春秋新社）山内一豊とその妻千代	第 9 卷 功名が辻
10	国盗り物語（1965 年 11 月 - 66 年 7 月、新潮社）斎藤道三、織田信長	第 10 卷 国盗り物語 斎藤道三篇 第 11 卷 国盗り物語 織田信長篇

今回は、直木賞受賞作で 1960 年にテレビドラマ化、1963 年・1999 年にそれぞれ映画化された『梟の城』、現在の坂本龍馬像を確立し最も販売数の多い代表作『竜馬がゆく』、NHK 大河ドラマの原作となり戦後の信長・光秀像を形成したと考えられる『国盗り物語』の 3 作品を例として取り上げる。以上の 3 つの資料について、冒頭から約 1P の分量の文章を取り出して、以下の基準でテキスト構成の分類をおこなった。基準は以下のとおりである¹⁸。

- （１） その時その場を共有してその時空の知覚的イメージ化が可能な文
 - （a） その特定の時空中の登場者や景物の動きを写す文（描写）
 - （b） その特定の時空とそこの中の登場者や景物について説明を述べる文（説明）
- （２） その時その場を共有せず知覚的イメージ化に別な方法が必要な文
 - （c） 特定の時空に属さず、その特定の時空の外からその時空について語る文（解説）

まず、『梟の城』の冒頭から 1P 分の内容は、以下のように分類できた。

資料 1 『梟の城 おとぎ峠』

（注）■：改行／①：丸数字は文番号／天正十九年：背景塗りは注目点／老人：枠囲いは登場者／㊦㊧：本文の太字、太字丸数字は特徴的な文

¹⁸ 分類基準は落合由治（2007）『日本語の文章構成に関する基礎的研究—テキスト論と結合して』致良出版社第 4 章参照。

[illegible]

■ ㉔ 老人は、杖の根もとにうずくまると、	㉔			
■ ㉕ 「このあたりに、庵があるはずじゃな」				
■ ㉖ 「葛籠さまの？」				

ここで注目されるのは、「語る（解説）文」の役割であろう。「語る（解説）文」には司馬遼太郎の作品では、2種類の役割があり、まず④のように時を設定したり、⑦、⑩、⑬のように特定の時空の中の登場者や景物について様子や理由を解説する文であると同時に、③のように、その特定の時空が「天正十九年」であると物語の外から設定したり、⑫のように「過ぐる天正九年」の解説を加える文として機能している。こ③⑫のような文を取り除いて読んでみれば歴史・時代小説かどうか判定しがたくなることから分かるように、実はこの作品が読者に時代・歴史小説だと分かるのは、③、⑫のような「語る（解説）文」に拠っていると考えられる。「写す（描写）文」、「述べる（説明）文」、「語る（解説）文」の機能は、論者によって呼び方や定義は異なっているとしても、フィクションとしての小説のテキスト構成の要素として広く認められている構成要素である¹⁹しかし、司馬遼太郎の歴史・時代小説では、その時空の中の登場者や景物を解説するばかりでなく、その時空そのものを外から解説する機能を果たしている。さらに、「過ぐる天正九年、～、伊賀ノ乱で信長の軍勢を悩ました下柘植次郎左衛門」というように、実際に伝承されている歴史的事績「天正伊賀の乱」²⁰を架空の人物「下柘植次郎左衛門」に付けて解説として語っている文⑫はノンフィクションをフィクションの説明に使っており、同時に「これは後述するが」という、テキスト構成上は、よく論文やエッセイで用いられるテキストの内容について順序や役割を解説する機能を持つ「メタ言語」²¹として使われている点も、歴史・時代小説では「語る（解説）文」が特別な役割を果たしている点を示唆しているように思われる。

¹⁹ 落合由治（2007）『日本語の文章構成に関する基礎的研究—テキスト論と結合して』致良出版社第3章参照。

²⁰ Wikipedia「伊賀流」参照。

²¹ メタ言語についてはローマン・ヤーコブソン／池上嘉彦・山中桂一訳（2004・1984）「言語学の問題としてのメタ言語」『言語とメタ言語』勁草書房を参照。

『梟の城』は架空の忍者・葛籠重蔵を主人公にした、まったくのフィクションと言って過言ではない作品であるが、司馬遼太郎では、「語る（解説）文」の役割が二重であることによって、そこに描かれている出来事が実際の歴史的実績に拠っているかのような印象を、権威的言説として、その架空の物語時空（「写す（描写）文」と「述べる（説明）文」が描き構成している物語時空あるいは表象）の外から読者に与えていると考えられる。こうしたテキストの特性は、今回取り上げた司馬遼太郎作品で繰り返し見られる特徴である。

次は、司馬遼太郎の代表作『竜馬が行く』の冒頭部分を見る。『竜馬がゆく』は実績がかなりの程度はっきりしている坂本龍馬を主人公にした小説であるが、ここでも「語る（解説）文」の役割は特異と言える。資料1『梟の城』のように、直接、時代を設定することはないが、②で登場した竜馬の姉の乙女の様子を説明する「た」なし文③に続いて、④「この屋敷の末っ子の竜馬が、江戸へ剣術修業に旅立つ」の解説が、やはり「た」なし文として並んであることで、まるで「乙女」の心理を描写しているかのように読んでしまう。しかし、実際には、④の「竜馬」「江戸」「剣術」で時代が幕末期に間接的に設定されていると言える。同様の「語る（解説）文」は文⑩にも見られる。文⑩から文⑬は文⑪で「乙女」が笑い出したことの原因を解説していると考えられるが、文⑩に「播磨屋橋を馬上で渡りかかったりっぱな武士が、橋のなかごろで馬が放屁をすると、すぐそのあと武士もたかだかと放屁した」という部分があることで、「馬」を使う「武士」の時代であることが間接的に示されている。こうした方法を語彙的提示と呼ぶ。『梟の城』と同様、『竜馬がゆく』でも「語る（解説）文」の役割は二重であり、「語る（解説）文」は、その特定の時空に属する登場者や景物の様子や理由を解説する言説であると同時に、その外から、その架空の物語時空自体を解説する言説として、読者に受容されていると考えられる。

資料2 『竜馬がゆく 門出の花』

（注）■：改行／①：丸数字は文番号／**竜馬が**：背景塗りは注目点／**源爺**ちゃ
ん：枠囲いは登場者／④⑤：太字丸数字は特徴的な文

本文	写す描写	述べる説明	語る解説	テキストでの機能
<p>■①「小嬢さまよ」 と、源爺ちゃんが、この日のあさ、坂本家の三女の乙女の部屋の前にはいつくばり、芝居もどきの神妙さで申しあげたものであった。</p> <p>■②「なんです」 と、乙女がうつむいて答えた。③手もとが針仕事でいそがしい。④あすという日は、この屋敷の末っ子の竜馬が、江戸へ剣術修業に旅立つ。</p>	①②	③	④	竜馬の旅立ちの前日を間接的に示し、空間を設定して副人物を登場させる時代設定
<p>■⑤「えらいことじゃ。お屋敷の中庭のすみの若桜が、花をつけちやりまする」</p> <p>■⑥「そんなの、わかっちゃよろ……」 乙女は、障子のかげで笑った。</p> <p>■⑦「またいつもの源おんちゃんの法螺じゃ。三月もなかばというのに、また桜が咲くということが、どうしてありましようそ」</p> <p>■⑧「まこと、まこと」</p> <p>■⑨どういう陽気のかげんか、源おんちゃんは、障子のむこうでおどっているらしい。</p> <p>■⑩「うそとお思いなら、出て見つかわされよ。たった一輪じゃが、目のさめるごとくにパッと咲いちやりまする」</p> <p>■⑫「ほんと？」</p> <p>■⑬つられて、縁側へ出てみた。⑭ひどく陽がまぶしかった。⑮なるほど、下枝のあたりに、クッキリとした白さで、一輪、花が咲いていた。⑯この桜の若木は、弟の竜馬が九つのとき、いたずら半分に植えたものであった。⑰ことしでちょうど十年になる。</p> <p>■⑱「これはほんとじゃ」</p> <p>■⑲乙女は感心してみつめていたが、やがてなにに気づいたのか、声をあげて笑い出した。</p>	⑤～⑧ ⑩～⑬ ⑱⑲	⑨ ⑭⑮	⑯⑰	①の「源爺」と②の「乙女」の描写 源おんちゃんの写真 花の描写 時の経過の解説
<p>■⑳笑うと、とまらないたちなのである。㉑いつか、播磨屋橋を馬上で渡りかけたりっぱな武士が、橋のなかごころで馬が放屁をすると、すぐそのあと武士もたかだかと放屁した、というのはなしを源おんちゃんがもどってきて話すと、乙女は「うっ」といったきり、目が白くなった。㉒やがて体を倒し、乳をおさえ、白足袋の両足をたたみの上に浮かし、ころげまわって笑いはじめた。㉓謹厳な長兄の権平が本気で心配して、</p> <p>■「これは、医者どのでも呼ばずんばなるまいかの」</p> <p>■と、いったほどのものだ。</p>			㉔ ㉕ ㉖㉗	②の「乙女」の性格の解説時代設定

最後に『国盗り物語』を見よう。『国盗り物語』前編は、ほとんど事績の残っていない斉藤道三の青年期から死までを描いた作品で、

ほぼ全篇フィクションと言える作品であるにも関わらず、そうしたほぼ架空の主人公に対して、ノンフィクションとして時代や経歴を「語る（解説）文」が、⑦⑨⑩⑪⑬～⑱⑳～㉒㉓～㉖㉗と大量に用いられており、今までの作品と同様の二重の機能を果たしている。物語の時間は文③で登場者の「乞食」とともに「永正十四年六月二十日」と語彙的に提示されているが、こうした語彙的提示は『竜馬がゆく』と同様である。また、⑬、㉓、㉖にも時代を示す語彙的提示が見られる。さらに以降の文㉑までの間で、⑦、⑪、㉒～㉓と「戦国」時代であることを語る文があり、その時代に対する様々な解説があることで、もともとフィクションに過ぎない「乞食」である松波庄九郎の履歴や心理を解説する⑨⑩⑬～⑱㉓～㉖および内裏の状況を解説する㉗の「語る（解説）文」は、まるで実際の歴史的事実に拠った経歴、状況であるかのように読まれることになるのではないと思われる。

資料3 『国盗り物語 開運の夜』

（注）■：改行／①：丸数字は文番号／御所の：背景塗りは注目点／老人：枠囲いは登場者／③：太字丸数字は特徴的な文

本文	写す描写	述べる説明	語る解説	テキストでの機能
■①落ちついている。 ■②声が、である。 ■③その 乞食 は、御所の紫展殿のやぶれ築地に腰をおろし、あごを永正十四年六月二十日の星空にむけながら、夜の涼をとっていた。	③	①②		③の「乞食」について説明し、「乞食」を登場させる時空を設定
■④風は、しきりと動いている。 ■⑤御所とはいえ、もはや廃墟とっていい。⑥風は、弘徽殿、北廊、仁寿殿の落ちた屋根、朽ちた柱のあいだを吹きとおろつつ、土塀の上の乞食のほおをなぶっていた。 ■⑦世は、戦国の初頭。―― ■⑧「国主になりたいものだ」と乞食はつぶやいた。 ■⑨ひとがきけば狂人とおもうだろう。⑩が、乞食は大まじめである。⑪ 事実、この夜のつぶやきは、日本史が永久に記憶しなければならなくなった。 ■⑫「草の種ならば、種によって菊にもなれば、雑草にもなる。が、人間はひとつの種だ。望んで望めぬことはある	⑧ ⑫	④⑤ ⑥	⑦ ⑨⑩ ⑪	空間の説明 時代の解説 ③の「乞食」の動きの描写 ③の「乞食」の解説 ③の「乞食」の動き

まい」				の描写
<p>■ ⑬ 乞食。 ■ ⑭ 厳密には乞食ではないのだが。 ■ ⑮ 京の西郊、西ノ岡のうまれ、——かつては妙覚寺本山で、「智恵第一の法蓮房」 ■ といわれた若者である。 ■ ⑯ 智恵第一どころか、「学は頭密の奥旨をきわめ、弁舌は富婁那(釈迦の弟子古代インドの雄弁家)にもおとらず」といわれるほどの学識もあった。 ■ ⑰ 舞もできる。⑱ 鼓も打て、笛を唇にあてれば名人の域といわれ、しかも、寺で教わりもせぬ刀槍弓矢の術まで、神妙無比の腕に達している。 ■ ⑲ いまの名は、松波庄九郎。—— ■ ⑲ おもうところがあって衣棚押小路の妙覚寺大本山をとびだし、還俗した。 ■ ⑳ 髪をのばしはしたが、京は応仁以来の戦乱で荒廃し、諸国はみだれ、さて食えるあてはない。 ■ ㉑ 戦国。—— ■ ㉒ といっても、この松波庄九郎、つまり後に戦国諸大名を傑えあがらせた斎藤道三の若いころは、まだ、家門がものまだ、家門がものをいう時代で、いかに有能でも、氏素姓もない庄九郎をいきなり士分に召しかかえる大名はなかった。 ■ ㉓ (——足軽かせぎなら) ■ ㉔ 口はある。 ■ ㉕ が、この自負心のつよい若者には、足軽奉公などは、死んでもいやだった。 ■ ㉖ ついに、乞食に落ちぶれてしまった。</p>			<p>⑬～ ⑮ ⑲</p> <p>⑳～ ㉒</p> <p>㉓～ ㉖</p>	<p>③の「乞食」の解説</p> <p>「戦国」に対する解説</p> <p>③の「乞食」の解説</p>
<p>■ ㉗ 「王にはなりたくないが」 と、庄九郎は、背後の内裏をみた。㉘ 庄九郎だけが乞食ではないのである。 ■ ㉙ 灯がひとつ、ともっている。</p>	㉗	㉙	㉘	<p>③の「乞食」の動きの描写 ㉗の内裏の解説 ㉗の内裏の説明</p>

つまり、まったくのフィクションである小説の中で、フィクションであるがゆえに逆に時代や経歴を詳細に語るような「語る（解説）文」を用いることは、架空の時空と人物にリアリティーを持たせる有効な手段になっていると言えよう。

また、ここでは資料 1 にも見られたような物語の構成を制御する「メタ言語」が⑩「事実、この夜のつぶやきは、日本史が永久に記

憶しなければならなくなった」、②「この松波庄九郎、つまり後に戦国諸大名を傑えあがらせた斎藤道三の若いころは、～大名はなかった」と後の予告として用いられ、「語る（解説）文」が述べている架空の「乞食」である松波庄九郎の履歴や心理にさらに権威を与えているように思われる。

さらに『国盗り物語』は前編のほぼ架空の斎藤道三の物語に、歴史的実績のある程度わかる織田信長の物語が後篇として接続されることで、前半のフィクションが後半のノンフィクション的側面からも補強されていると言え、司馬遼太郎の作品が用いている、フィクションをノンフィクションに拠ってノンフィクションに見せるという手法が明確な作品と言えよう。

以上見てきたように、フィクションとしての小説の「語る（解説）文」の役割と同様に作者の主観的意図の表出であるにもかかわらず、司馬遼太郎の作品では、「語る（解説）文」に歴史的対象に関わるノンフィクションが入り込むことで、全体としてまるでフィクションとしての小説とは異なる、その時空が歴史的対象を再現したノンフィクションであるかのような印象を与えていると考えられる。

4. おわりに

以上、3つの作品の冒頭部分をサンプルとして、テキスト構成を考察した。その結果、司馬遼太郎の歴史・時代小説のテキスト的特徴の一つは時代や人物を語る「語る（解説）文」の二重性にあることが分かった。「語る（解説）文」は、フィクションとしての小説では事件や人物の解説や動機の解説に普通に用いられる表現であり、いわゆる心理描写の中心的役割を果たしている文になっているが、司馬遼太郎の歴史・時代小説ではこの部分に、断片的なノンフィクションとしての「史実」や「歴史的知識」などが解説として入れ込まれることで、本来は架空の物語の時空と人物にリアリティーを与え、フィクションの全体がまるでノンフィクションであるかのような印象を読者に与えていると考えられる。

専門の歴史家からすでに批判が出ていることから明らかなように²²、『竜馬がゆく』のフィクションとしての龍馬（竜馬）像が大きな影響を現代日本人に与えていることは言を待たないが、その他の司馬遼太郎作品の影響力も非常に大きいと言える。2回映画化された『梟の城』は、講談の著名なヒーローである霧隠れ才蔵を主人公にした『風神の門』とともに戦後の忍者ブームの火付け役と考えられる。さらに、『国盗り物語』は大河ドラマの原作となり 22.4%の視聴率を集め、小説の売り上げも司馬遼太郎作品中の5位で674万部もある²³。ドラマと小説の影響は、織田信長と関係の深い斎藤道三という事績のほとんど知られなかった戦国大名の架空の人物像と事績を現代日本人に与えると同時に、後篇に描かれた織田信長と道三の娘・濃姫（帰蝶）との夫婦愛や信長の「合理主義者」という架空のイメージを形成し、それが現代人の戦国時代像になってしまい、また現在の『信長の野望』、『戦国無双』、『戦国 BASARA』などゲームのキャラクター設定などに繋がって、若い世代にも大きな影響を与えていると考えられる²⁴。

このように歴史面でフィクションがノンフィクション化していくことが現代日本社会の中で果たしてどのような影響を及ぼしているのか、様々な視点での研究が必要と考えられる。また、フィクションがノンフィクション化していく作用を及ぼす類似の媒体も、漫画、ゲーム、映画、ドラマ等は言うに及ばず新聞、テレビ、インターネット、教育など実はいたるところにあふれている。こうした点

²² 一例として、松浦玲（2008・2001）『検証・龍馬伝説』論創社は司馬遼太郎の『竜馬がゆく』の長崎時代がまったく史実から外れていることや、薩長同盟での役割を過大に描いている点などを指摘している。

²³ 表1および同注12参照。

²⁴ 証明は必要ではあるが司馬遼太郎の読者ならばこうした関連性は容易に推測できよう。一例として、Yahoo 知恵袋（2009）「戦国無双シリーズは司馬遼太郎氏の小説を意識しているのでしょうか？」ではゲーム『戦国無双シリーズ』の設定に影響している司馬遼太郎の作品として『関ヶ原』『霸王の家』『国盗り物語』を上げている

http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1431091694
（2010年9月12日閲覧）

で、歴史面でのフィクションのノンフィクション化という視点から見たとき、その媒体として重要な歴史・時代小説が提示している架空の歴史像の影響は、文化リテラシーの重要な問題として、日本語教育の中でも今後、取り上げていくべき課題と言える²⁵。今後も、様々なメディアによるフィクションのノンフィクション化の現象について考察していきたい。

テキスト

司馬遼太郎（1997・1972）『梟の城』『司馬遼太郎全集 1』文藝春秋社

司馬遼太郎（1997・1972）『梟の城』『司馬遼太郎全集 3』文藝春秋社

司馬遼太郎（1973・1971）『梟の城』『司馬遼太郎全集 10』文藝春秋社

参考文献

ITmediaGamez（2009）「ブームのきっかけは「BASARA」—乙女もハマる、歴史専門店「時代屋」に行ってきました」<http://gamez.itmedia.co.jp/games/articles/0901/27/news113.html>（2010年9月11日閲覧）

NHK「大河ドラマ一覧」<http://www9.nhk.or.jp/taiga/>（2010年9月11日閲覧）

Wikipedia「歴代大河ドラマ」「伊賀」（2010年9月11日閲覧）

AllAbout（2009）「資格・検定に見る「歴史ブーム」！」<http://allabout.co.jp/gm/gc/57843/>以上、2010年9月10日閲覧）

落合由治（2007）『日本語の文章構成に関する基礎的研究—テキスト論と結合して』致良出版社

佐々木倫子・細川英雄・砂川祐一・川上郁雄・門倉正美・牲川波都季（2007）『変貌する言語教育—多言語・多文化社会のリテラシーズとは何か』くろしお出版

司馬遼太郎記念館「司馬遼太郎作品年抄」<http://www.shibazaidan.or.jp/24nenpyo/index.html>（2010年9月11日閲覧）

社会実情データ図録「図録 NHK 大河ドラマの平均視聴率推移」<http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/3967.html> 参照（2010年9月12日閲覧）。

中国新聞社（2008）「大和ブームその後 海の歴史回廊つくろう」<http://www.chugoku-np.co.jp/Syasetu/Sh200803030140.html>（2010年

²⁵ 佐々木倫子・細川英雄・砂川祐一・川上郁雄・門倉正美・牲川波都季（2007）『変貌する言語教育—多言語・多文化社会のリテラシーズとは何か』くろしお出版第1章「異文化リテラシーとコミュニケーション能力」では異文化理解での相互の歴史観への寛容性や理解の重要性が説かれている。

- 9月12日閲覧)
- 日経ビジネス ONLINE (2009)「深澤真紀の平成女子図鑑・【21】歴女（レキジョ）と和女子」<http://business.nikkeibp.co.jp/article/skillup/20090520/195263/> (2010年9月12日閲覧)
- 日経ビジネス ONLINE (2010)「世界的な歴史本ブームの背景とは」
<http://business.nikkeibp.co.jp/article/world/20100216/212782/>
(以上、2010年9月10日閲覧)
- 野浪正隆「小説の冒頭部の機能について」
<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kokugo/nonami/ronbun/boutou.htm> (2010年9月11日閲覧) 初出・野浪正隆 (1999)「小説の冒頭部の機能について」『学大国文』42 大阪教育大学 P23-42
- 野浪正隆「時代小説の冒頭表現」
<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~kokugo/nonami/ronbun/jidaiboutou.html> (2010年9月11日閲覧) 初出・野浪正隆 (2004)「時代小説の冒頭表現」『学大国文』47 大阪教育大学 P1-19
- 野浪正隆 (2007)「時代小説における風景描写」『学大国文』50 大阪教育大学 P37-47
- 博客來網路書店 <http://www.books.com.tw/> (2010年9月11日閲覧)
- ビデオリサーチ (2010)「NHK 大河ドラマ 関東地区」<http://www.videor.co.jp/data/ratedata/program/03taiga.htm>
- 松浦玲 (2008・2001)『検証・龍馬伝説』論創社
- Yahoo 知恵袋 (2009)「戦国無双シリーズは司馬遼太郎氏の小説を意識しているのでしょうか？」http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1431091694 (2010年9月12日閲覧)
- ローマン・ヤーコブソン／池上嘉彦・山中桂一訳 (2004・1984)「言語学の問題としてのメタ言語」『言語とメタ言語』勁草書房

これは、2010年10月の「2010年台大日本語文創新國際學術研討會」で発表した内容に加筆訂正をおこなったものである。また、台湾国家科学委員会專題研究計画 98-2410-H-032-069-による研究成果である。委員会の本研究へのご支援に対し衷心から感謝の意を表する。